

# 「平和の灯」をボランティア補修

## コンクリート診断士会とメンテナンス協会

### 「適切な補修で長持ち」広めたい



補修方法を確認する参加者ら

広島県コンクリート診断士会(米倉亜州夫会長)

と(社)コンクリートメンテナンス協会(徳納剛

会長)とが共同で実施す

る平和記念公園「平和の

灯」のボランティア補修工

事が19日から始まった。

昨年5月の健全度調査、

今年1月の高圧洗浄・補

修試験の結果をもとに鉄

筋防錆処理やひび割れ補

修などを施し、7月3日

まで延べ6日間作業する。

「平和の灯」は、平和記

念公園内にあるRC造の

モニュメント。手のひら

を大空に広げた形で平和

への祈りを表現してお

り、設計を丹下健三氏、

施工は大林組が担当。昭

和39年に建立された。

多くの観光客の目に触

れる場所にあるが、過去

に本格的な補修は行われ

てこなかったためカビや

コケで表面が黒く変色。

加えて、ひび割れやコン

クリートの剥離も点在していたことから、状況を  
見かねた同会らがボラン  
ティアによる健全度調査  
を広島市に進言。その  
後、長寿命化計画の提案  
や補修工法選定のための  
試験なども行っていた。  
作業初日となった19日  
は会員ら約30人が参加  
し、モニュメント表面の  
汚れを高圧水で洗浄した  
ほか、ハンマーによる打  
音検査で補修箇所を確認  
した。2日目以降は鉄筋  
腐食箇所のはつり出しや  
防錆処理、ひび割れ等の  
充填補修、コンクリート  
強化材・保護材料の塗布  
や仕上げ調整などを行っ  
ていくとしており、亜硝  
酸リチウム(鉄筋防錆)、  
シラン系表面含浸材(水  
分等からの保護)、酸化  
チタンコーティング(光  
触媒による汚れ防止)な

ど最新の補修材料も活用  
し、会員の技術向上にも  
つなげる。

活動を主導した診断士  
会の鈴木智郎副会長(復  
建調査設計)によれば、  
昨年から続く一連の活動  
は今回で一段落するが、  
広島市には5年に1度の  
メンテナンスを提案して  
おり、今後も要請があれ  
ばできる限り協力する考  
えという。



米倉会長(米倉社会イ  
ンフラ技術研究所、写真)  
は「コンクリートは汚れ  
や劣化が起きやすいと思  
われているかもしれない  
が、そうではない。適切  
な施工、補修をすれば非  
常に長持ちするといっ  
ことを広めたい」と話して  
いた。